



S-POOL 通信

CONTENTS

- 1 株主の皆様へ
- 2 財務データ
- 3 セグメント情報
- 4 会社概況／株式情報
- 5 株主メモ
- 6 S-POOL サポーター広場
- 7 S-POOL People
- 8 特集：障がい者雇用支援サービスの開始

株式会社エスプール

第11期 第2四半期 株主通信

2009年12月1日～2010年5月31日



第11期 第2四半期までの総括

はじめに、当第2四半期累計期間の業績について、期初の計画と乖離することとなり、株主の皆様には多大なご心配をお掛けしたことを心からお詫び申し上げます。

売上面では、人材派遣サービスからアウトソーシングサービスへの移行が順調に進みました。ロジスティクスとキャンペーンのアウトソーシングサービスが好調だったビジネスソリューション事業の売上が大幅に増加し、新入社員研修の受注が拡大したパフォーマンス・コンサルティング事業もグループ業績に大きく寄与しました。また、人材派遣サービスを提供する人材ソリューション事業についても、前期比では売上が減少したものの、受注回復が進んだことで期初計画を上回って推移することができました。

一方、システム事業においては、主力のSES部門の売上減少が大きく、受託開発の新規受注が伸び悩んだこともあり、売上が前期比、計画比のいずれも大幅に下回りました。

以上の結果、売上高は2,756百万円となりました。

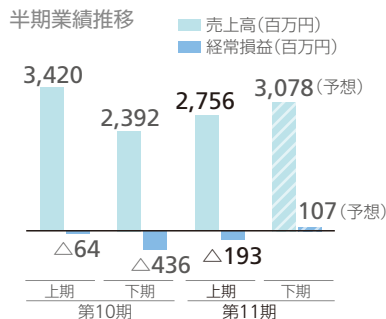
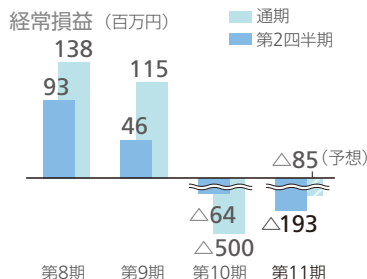
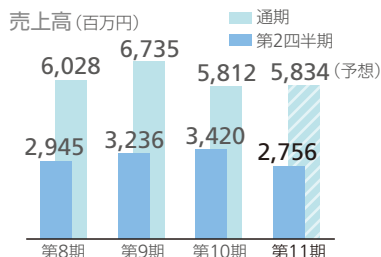
利益面については、コスト削減と売上回復が進んだ人材

ソリューション事業及び売上が大幅に増加したパフォーマンス・コンサルティング事業が好調に推移する一方で、システム、ビジネスソリューション及びモバイル・マーケティング事業が計画未達となりました。

システム事業では、売上総利益の減少にコスト削減が追いつかず、既存案件において追加開発費用が発生した結果、124百万円の営業損失を計上しました。ビジネスソリューション事業では、主力のロジスティクス、キャンペーンのアウトソーシングは順調に増益となりましたが、派遣法の改正をにらんで準備を進めた直接雇用支援サービスの収益化が進まなかったため、事業全体では計画を下回りました。なお、法改正が当面遠のいたことを受け、直接雇用支援サービスについては、2010年5月末をもって新規の投資を凍結しております。

以上の結果、営業損失は181百万円、経常損失は193百万円、四半期純損失は178百万円となりました。

財務ハイライト



システム事業の立て直しと
成長分野の育成により
早期の黒字回復を
目指します。



代表取締役会長兼社長
浦上 壮平

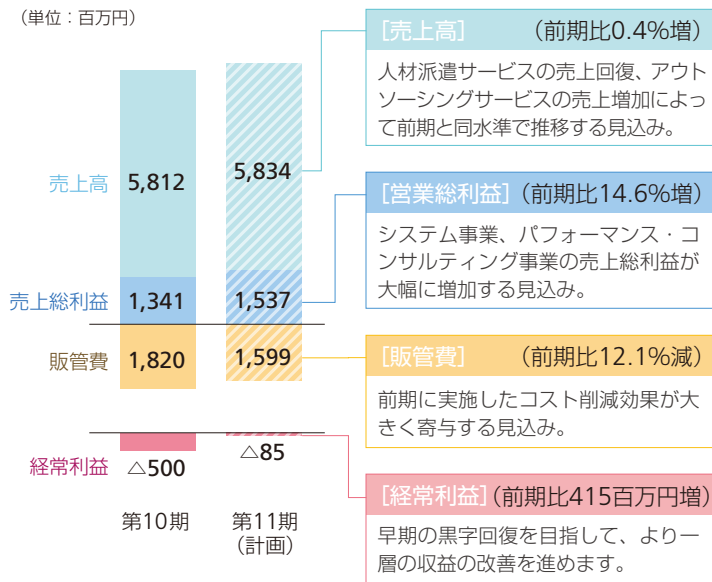
第11期 第3四半期以降の取り組みについて

第3四半期以降については、①収益悪化事業の改善、②収益事業の強化、③成長事業の育成に重点的に取り組んでまいります。システム事業については、コスト削減がほぼ完了し収支バランスの改善は進んでいますが、収益性をさらに高めるために、需要の回復が進んでいるSES部門への経営資源の集中を進めていきます。また、現在の収益源である人材派遣、企業研修、物流センターの運営受託サービスの拡大に注力するとともに、商品発送代行業務や障がい者雇用支援サービスなど成長分野の育成にも取り組んでまいります。商品発送代行業務は、インターネット通販の拡大によって今後ますますの拡大が期待できるほか、障がい者雇用支援サービスについては、今年7月の障害者雇用促進法の改正によってニーズの拡大が見込まれています。

以上の取り組みにより早期の黒字回復を図ってまいりますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

通期の見し

(単位：百万円)



2 財務データ

(単位：百万円)

	第10期 (2008年12月1日～ 2009年11月30日)	第10期第2四半期 (2008年12月1日～ 2009年5月31日)	第11期第2四半期 (2009年12月1日～ 2010年5月31日)
売上高	5,812	3,420	2,756
営業利益	△ 478	△ 50	△ 181
経常利益	△ 500	△ 64	△ 193
当期純利益	△ 470	△ 93	△ 178
流動資産	1,332	1,861	1,276
固定資産	702	657	721
流動負債	925	971	1,128
純資産	727	1,104	547
総資産	2,035	2,518	1,998

売上高のポイント

前期比にて、663百万円の減収(19.4%減)となりました。減収の主な原因は、システム事業、人材ソリューション事業(人材派遣サービス)、モバイル・マーケティング事業になります。なお、人材派遣サービスは、主に物流業務関連の売上が減少しましたが、その減少分は同分野のアウトソーシングサービスの増加にて補っています。

営業利益のポイント

前期比にて130百万円の減益となりました。減益の主な原因は、システム事業、ビジネスソリューション事業、モバイル・マーケティング事業になります。特にシステム事業は124百万円の営業損失となり、連結業績に大きな影響を及ぼしました。一方で、コスト削減が進んだ人材ソリューション事業と、売上の増加と売上総利益率が改善したパフォーマンス・コンサルティング事業は増益となったほか、本社経費も削減も進みました。

貸借対照表のポイント

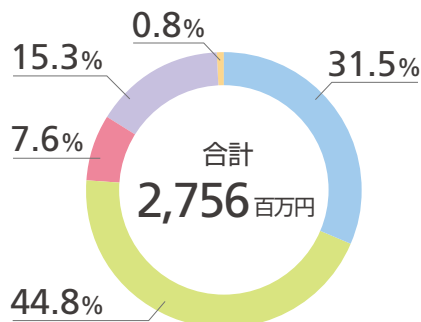
総資産は、第10期末から37百万円減少し1,998百万円となりました。これは主に現金及び預金の減少によるものです。

負債は、第10期末から142百万円増加し1,450百万円となりました。これは主に短期借入金を借り増したことと業務の受託増加により買掛金が増加したことによります。純資産は、第10期末から179百万円減少し、547百万円となりました。これは主に四半期純損失によるものです。

1株当たりデータ

当期純利益	△ 18,203.66	△ 3,625.09 円	△ 6,914.17 円
配当金	—	—	—
純資産	28,056.46 円	42,635.04 円	21,142.29 円

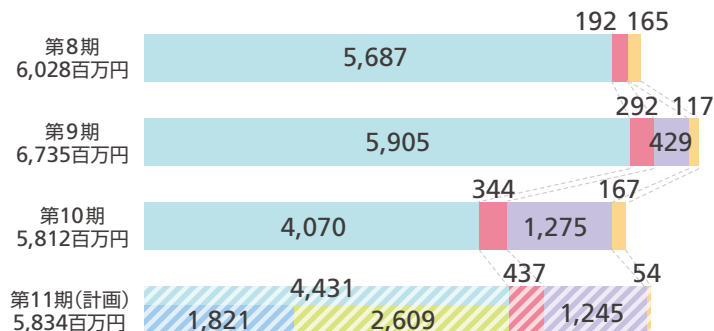
セグメント別売上高構成比 (第11期 第2四半期)



(セグメント間取引を含む)

総合人材アウトソーシング ■ ビジネスソリューション ■ 人材ソリューション ■ パフォーマンス・コンサルティング ■ システム ■ モバイル・マーケティング

セグメント別売上高推移



ビジネスソリューション事業

(株)エスプール

売上高 **919**百万円 営業利益 **△16**百万円

株式会社エスプールにてロジスティクスアウトソーシング、セールスプロモーション等のサービスを提供しています。

昨年11月に開始した商品発送代行業務のほか、主力の物流センターの運営受託業務の増加により、ロジスティクスアウトソーシングの売上が大幅に増加しました。また、企業部門の収益性改善を背景に販売促進を目的としたキャンペーン受託も増加しました。しかし、損益面では、派遣法改正をにらんで準備を進めた直接雇用支援サービスの収益化が進まず、営業損失が発生しました。なお、直接雇用支援サービスについては、今年の5月末で新規の投資を凍結しました。

人材ソリューション事業

(株)エスプール
ヒューマンソリューションズ売上高 **1,308**百万円 営業利益 **111**百万円

2009年12月1日付で株式会社エスプールから会社分割によって分離した株式会社エスプールヒューマンソリューションズにおいて、人材派遣や営業代行等、人材に係わるサービスを提供しています。

景気回復の流れとともに、人材派遣需要の落ち込みについては回復傾向にあります。前期と比較すると未だ8割程度の水準しかありませんが、当第2四半期を第1四半期と比較すると売上高が15%増加しています。また、前期にてコスト削減が完了しており、収益力は大幅に向上しました。

パフォーマンス・コンサルティング事業

(株)エスプール総合研究所

売上高 **222**百万円 営業利益 **41**百万円

新入社員向け研修の受注が好調に推移し、売上・利益ともに過去最高となりました。得意分野である即効性の高い意識変革系の研修が、いわゆるゆとり世代が入社した企業のニーズを捉えました。また、相対的に利益率の低かった大型案件がなく、利益率も大幅に向上しました。

システム事業

(株)GIM

売上高 **447**百万円 営業利益 **△124**百万円

主力のSES事業については、稼働人数はリーマン・ショック前の水準の未だ半分程度となっていますが、受注も回復傾向にあり概ね計画通り推移しました。一方、受託開発については新規受注が伸び悩んだほか、既存案件において追加開発費用が発生しています。以上の結果、売上・利益ともに大幅に減少し、連結業績に大きな影響を及ぼしました。

モバイル・マーケティング事業

(株)エスプール・マーケティング

売上高 **24**百万円 営業利益 **△20**百万円

定期受注していた大型の市場調査案件が消滅したため、売上・利益ともに大幅に減少しました。

4 会社概況／株式情報 (2010年5月31日現在)

会社概要

会社名 株式会社エスプール (S-Pool, Inc.)
創 立 1999年12月1日
資本金 584,730,312円
従業員 325名
(連結ベース、うち契約社員・アルバイト64名)
本 社 東京都中央区日本橋二丁目15番3号
ヒューリック江戸橋ビル3階
TEL: 03-3517-6633 (代表)
グループ会社 株式会社エスプールヒューマンソリューションズ
株式会社エスプール総合研究所
株式会社エスプール・マーケティング
株式会社 GIM

役員

代表取締役会長兼社長	浦上 壮平	社外取締役	竹原 相光
取 締 役	吉村 慎吾	常勤監査役	徐 進
取 締 役	佐藤 英朗	社外監査役	畑中 裕
社外取締役	赤浦 徹	社外監査役	吉岡 勇

株式の状況

発行可能株式総数	100,320株
発行済株式の総数	25,834株
株主数	1,313名

大株主

株主名	持株数	持株比率
浦上 壮平	5,709株	22.10%
吉村 慎吾	5,365株	20.77%
エスプール従業員持株会	1,819株	7.04%
佐藤 英朗	1,088株	4.21%
石田 敦信	849株	3.29%

所有者別株式分布状況



5 株主メモ

証券コード 2471
事業年度 毎年12月1日から翌年11月30日まで
定時株主総会 毎年2月開催
基準日 定時株主総会 毎年11月30日
期末配当金 毎年11月30日
中間配当金 毎年5月31日

その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

株主名簿管理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
住友信託銀行株式会社

同事務取扱場所 東京都中央区八重洲二丁目3番1号
住友信託銀行株式会社 証券代行部

郵便物送付および〒183-8701
電話照会先 東京都府中市日鋼町1番10
住友信託銀行株式会社 証券代行部
☎0120-176-417

インターネットホームページ URL

<http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>

公告方法 電子公告とする。但し、電子公告を行うことができない事故その他のやむをえない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して公告する。

上場証券取引所 大阪証券取引所「ヘラクレス」市場

〈株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について〉

住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社あてにお願いいたします。

本誌には将来の財務状態および業績に関する記述が含まれています。これらの記述は、経営を取り巻く環境の変化などにより異なる結果となり得ることをご承知おください。

Q1

現在の収益の柱について
教えてください。

A1

現在の収益の柱は、人材派遣(人材ソリューション事業)、企業研修(パフォーマンス・コンサルティング事業)、物流センターの運営受託(ビジネスソリューション事業)の3つのサービスになります。それぞれ独自の強みを活かした事業展開を行いお客様の信頼を得ることで、強力な事業基盤を確立しています。

Q2

今後、成長が見込まれる分野
について教えてください。

A2

商品発送代行業務と障がい者雇用支援サービス(いずれも人材ソリューション事業)は成長が期待されます。商品発送代行業務は、インターネット通販の拡大を背景に市場が急拡大しているほか、障がい者雇用支援サービスの分野は、今年7月の障害者雇用促進法の改正によりニーズが高まっています。

Q3

エスプールの競争力・成長力の
源泉はどこにありますか？

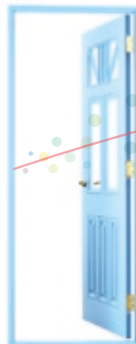
A3

エスプールのコアコンピタンスは「人材」になります。当社のアウトソーシングサービスは、社会や企業が抱える問題を、私たちの持つアイデア、知識、ノウハウを結集して解決することが原点になりますので、優秀な人材が競争力・成長力の源泉になります。人物紹介の特集ページも是非ご覧ください。

投資家情報サイト(IRページ)をリニューアルしました

2010年7月に投資家情報サイト(IRページ)をリニューアルしました。株主の皆様、当社をより一層ご理解していただけるように、今後も情報発信に力を入れてまいります。

<http://ir.spool.co.jp/>



S-POOLの成長の原動力

それは失敗を恐れず、色々なことにチャレンジしていく社員たちです。今回は株式会社エスプールの4名が登場。さまざまなシーンで活躍する個性豊かな社員の姿をご紹介します。

社長室

事業内容

広報・IR、経営企画、法務、内部監査の4つの重要な機能を担っており、エスプールグループ全体の業務を幅広く取り仕切っています。

エスプールグループの成長と コンプライアンス推進の舵取り役。

内部監査では、社内外のリスクを分析・評価し、重点監査項目を中心に社内の監査を行い、社長へ報告を行います。具体的には、コンプライアンスの企業風土や、関連法規の遵守状況、業務の不備・非効率な部分がないかなどを監査していきます。リスクへの防止策が実施できたときや、全体最適を考え、業務改善ができたときにはとてもやりがいを感じます。

エスプールの魅力は、未経験でも個人のチャレンジを応援する社風、そして朗らかな人柄の方が多く、人の成長を温かく見守ってくれるところです。内部監査を担当し、ちょうど2年になりますが、監査の領域は広範かつ奥が深く、毎年新たな発見が多々あります。これからも内部監査を通して、エスプールグループの企業価値を高められるように精進していきたいです。

宮田 晶

2006年中途入社。内部監査を担当。内部統制制度の導入や運用、プライバシーマーク(Pマーク)の取得など、社内的重要プロジェクトにも数多く参加。



コミュニケーション事業部

事業内容

サンプリングや屋外広告を活用したセールスプロモーションだけでなく、行政関連の全国規模の調査や説明会の実施などの事務局運営業務も行っています。

あらゆるキャンペーンを 成功に収めるプロフェッショナル集団。

新商品の広告宣伝や販売促進プロモーションの企画立案からイベントの実施、その後の結果分析までを、クライアントの広報担当者や広告代理店と連携しながら行っています。売上規模が大きい全国規模のプロモーションが決まったときや、自分のアイデアがクライアントの心を動かしたときは、それまでの苦労をすべて忘れさせてくれます。

エスプールの強みは、広告、マーケティング、人材派遣、システム、企業研修など、グループで幅広いサービスを展開しており、クライアントに複合的な提案ができること。さまざまな課題の解決ができることで、クライアントとも非常に深い関係を維持しています。

池本 峰雄

2005年中途入社。入社以来、セールスプロモーション畑を歩む。現在は、主に食品メーカーの新商品のキャンペーンを担当。



ロジスティクス事業部

事業内容

ロジスティクスサービスは、エスプールが設立以来取り組んでいる分野。物流センターの運営受託や商品の発送代行業務を中心に行っています。

強い物流現場をつくりあげる
優れた業務改善と組織マネジメント力。

納品代行業務は、常に時間との勝負。商品が百貨店の売り場にきちんと並ぶように、時間内にミスなく発送することが求められます。また、現在約22名のスタッフと一緒に働いており、彼らの教育も大切な仕事になります。日々の指導を通じてチームメンバーがだんだんと自主的に動くようになり、頼りがいがあるくらいに成長したときには、本当に嬉しく思います。

エスプールの魅力は、チャレンジできる環境がたくさんあること。新人であっても希望すれば責任ある仕事を任せてもらえます。入社2年目の今はまた、「学び」の部分が大きいですが、先輩や上司からどんどん吸収し、社会人として市場価値を高めていけるように毎日を大切にしたいと思っています。

長谷部 健人

2009年新卒入社。百貨店への納品代行を行う企業の物流センターに勤務。商品の検品や加工業務を担当。



障がい者雇用支援事業部

事業内容

自社農園による障がい者雇用を検討している企業に対して、当社の水耕栽培農園施設を利用した障がい者雇用の支援サービスを行っています。

日本中の障がい者の方々が
楽しく働くことのできる農園を広めたい。

障がい者雇用支援事業部は、まだ出来上がったばかりの部署なので、営業手法や業務フローの構築からサービス内容の立案まで、すべての仕事について、新しいことを0からつくっています。

やりがいを感じるのには、誰かのためになっていると感じるときです。単純ですが、お客様がありがとうと言ってくださると「もっと頑張ろう」とパワーがでます。今取り組んでいる水耕栽培農業を利用した障がい者の雇用支援事業について、企業のみならず行政や障がい者団体にいたるまで、非常に多くの方々から、とても大きな期待の声をいただいています。皆様のご期待を胸に、日本の障がい者雇用の新しい形をつくっていきたいと思います。

高田 由季子

2009年新卒入社。企業への営業活動、障がい者施設との連携、業務フローの作成など、担当業務は広範囲に及ぶ。



障がい者雇用支援サービスの開始

2010年7月の障害者雇用促進法

の改正により、企業の障がい者の雇用義務が今後より一層求められるようになりましたが、多くの企業では障がい者の雇用が思うように進んでいないのが現状です。また、日本国内に約724万人の障がい者がいる一方で、一般の民間企業に就業できているのは、わずか32万人しかないという事実があります。

このような中、当社では、障がい者の就業機会の拡大と企業の障がい者雇用の支援を行うため、水耕栽培農業を

利用した障がい者雇用支援サービスを

2010年5月に開始しました。企業は、当社の水耕栽培施設を共同利用することで、スムーズな自社農園の立ち上げを可能にするだけでなく、障がい者の雇用に関する支援やメンタルサポート、農業指導、特例子会社設立や助成金に関するアドバイスまで受けることができます。水耕栽培にて生産した野菜を有効活用できる外食チェーンや社員食堂を有する企業を中心に、今年度中に10社の導入を目指します。

障害者雇用促進法とは？

障がい者も障がいのない人と同じように能力、適正に応じて雇用される社会の実現のため整備された法律。企業及び各種団体は、法律により一定数の障がい者雇用が義務付けられています。この法定割合に達しない場合は納付金を徴収し、法定以上の雇用のある企業などには調整金、報奨金が支給されます。今年7月の法改正により、常用雇用301人以上の事業主に加え、201人以上の事業主も対象となるほか、短時間労働者も新たに対象となるため、アルバイトを数多く雇用する企業を中心に対象が広がることが予想されています。

■ 障害者の雇用状況について

民間企業への就業人数
32.6万人*2



*1 総人口の5.7%に相当

*2 [内訳]

身体障害者：26.6万人

知的障害者：5.4万人

精神障害者：0.6万人

出典：障害者白書（平成21年版）

■ 法定雇用率について

事業主	対象人数	法定雇用率
民間企業	常用労働者数56人以上	1.8%
国・地方公共団体・特殊法人など	常用労働者数48人以上	2.1%
都道府県等の教育委員会	常用労働者数50人以上	2.0%

水耕栽培農業のメリット

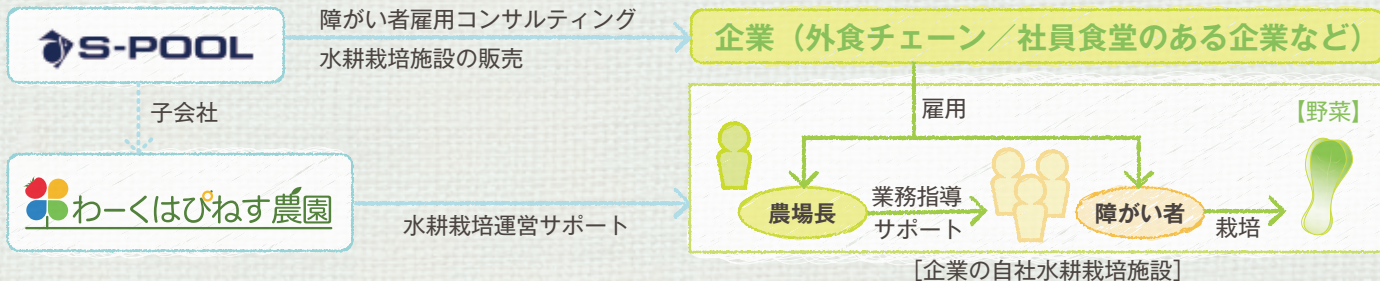
- 多毛作のため安定的な野菜の収穫と障がい者の雇用が可能です。
- 土地の良し悪しに左右されません。（場所を選びません。）
- 作業がシンプルなため、大半の障がい者が業務に従事できます。
- 水と緑に触れ合うことにより、障がい者の精神の安定につながります。



【収穫できる主な農作物】

サラダ菜、サニーレタス、サンチュ、水菜、コネギ、オカヒジキ、赤カラシナ、ワサビナ、エンサイ、クレソン、ホウレン草、チンゲン菜、春菊、小松菜など。

■ サービスの仕組み





私たちの思い

「ノーマライゼーションの実現に向けて」

私たちエスプールグループは、「人の可能性は無限大である」という信念のもと「人は必ず変わることができる」、「人は必ず成長できる」、「人は必ず輝ける場所がある」という思いで人材ビジネスに携わってきました。

しかしながら、日本では障がい者の方々が、「働く」というごく当たり前の活動をするにさえ難しい現実があります。私たちは、本気でこの現状を変え、すべての人々が「働く幸せ」（ワークハピネス）を体感できる社会をつくり、ノーマライゼーションの実現と障がい者の職業的自立及び社会参加の支援に全力で取り組んでいきます。

